

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立長松小学校																																																																																					
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究において、授業改善が進み、児童の主体的な学びが増えた。今後も、「対話活動」と「振り返り」を授業内に取り入れ、活用する力（見方・考え方、学び方）の育成を図る。 ・自問教育が軌道に乗った。掃除に限らず様々な場面で、玉みがきを意識させ、心の教育に努める。 ・保健指導と「生活習慣100点運動」,「ノーメディアデー」等の関連を図り、望ましい生活習慣の獲得に向けた児童の実践意欲を高める。																																																																																					
2 学校教育目標	「自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成」																																																																																					
3 本年度の重点目標	◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進 ①心身ともにたくましい子（保体部） ②当たり前のことができる子（生活部） ③みんなで伸びようと協力する子（特活部） ④自ら学び、考える子（学習部）																																																																																					
4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価																																																																																					
(1)共通評価項目																																																																																						
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th><th colspan="2">最終評価</th><th colspan="2">学校関係者評価</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th><th>評価</th><th>意見や提言</th></tr><tr><td rowspan="2">●学力の向上</td><td>●全職員による共通理解と共通実践</td><td>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上</td><td>・学力向上対策評価シートやアクションプランを使って、学力向上のPDCAサイクルを確立するとともに、校内研究を充実させ、授業改善を行う。</td><td>B</td><td>・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師86.3%。 ・授業研究を推進し、全校級で研究授業の実践、授業改善に取り組むことができた。</td><td>B</td><td>・落ち着いて学習に取り組んで切る様子が伺える。 ・家庭での協力も不可欠。</td></tr><tr><td>○自分の考えを伝え合い、深め合う[対話活動]や学習内容や学び方を振り返る「振り返り」の充実 ○理由や要点、筋道を立てて考えたこと等を文章で書いたり、説明したりする活動の充実</td><td>○独自アンケートで「見通しをもって学習した」「対話活動で進文の考えを相手に分かりやすく説明した」「授業の終わりに振り返ることで身についた力を確認できた」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上</td><td>・コミュニケーションスキルを意図的に価値付けることで有効な対話活動ができるようにする。また、学習内容と学び方を振り返らせることで、これらを活用できるようにする。 ・必要感のある対話活動を設定し、児童の書きたい説明したいという意欲を喚起する。表現の技能については、「分かりやすい説明の仕方」をもとに指導する。</td><td>B</td><td>・「見通しをもって学習した」「対話活動で進文の考えを相手に分かりやすく説明した」「授業の終わりに振り返ることで身についた力を確認できた」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合83.7%。感染症の影響により対話活動が十分にできなかったことも影響している。</td><td>B</td><td>・グループ学習が制限されているために、工夫して学習に取り組む必要がある。</td></tr><tr><td rowspan="3">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が95%以上</td><td>・道徳教育の充実。 ・年3回の人権教室の充実。 ・「さん」づけで呼び合わせる指導。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。</td><td>B</td><td>・「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合が、年間を通して95%以上となった。これからも友達を大切にする取り組みを、様々な場面で取り入れていきたい。</td><td>B</td><td>・日常の様子から優しい子どもたちも多く見受けられる。 ・朝の挨拶をする姿に、大きな差が見受けられる。日常の指導が必要。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</td><td>○学校生活に関わるアンケートで、肯定的意見が95%以上 ○不登校児童の人数を10人以下になるよう目指す。</td><td>・毎月、児童へのアンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努める。 ・毎月の生徒指導協議会で、気になる児童については些細な事でも情報を発信し、学校全体で支援していく。</td><td>B</td><td>・これまで以上に適切にいじめに対応するために、いじめ対策委員会を効果的に機能させる。また、その方法を探っていく。 ・学校生活に関わるアンケートで、肯定的な意見が9割を超えた。</td><td>B</td><td>・大きな問題になっていないので、これからも、学校が早期に対応を行ってほしい。 いじめ防止標語の内容は素晴らしいものが集まっている。</td></tr><tr><td>◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</td><td>◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上</td><td>・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、各学年、年3回以上実施する。</td><td>A</td><td>・道徳や総合の時間に将来について考える時間を設定し、85%以上の児童が将来の目標をもつことができた。</td><td>B</td><td>・夢は追いかけることが必要であり、自分の夢を表現する場が必要。</td></tr><tr><td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>●望ましい生活習慣の形成</td><td>○「あ・ス・な・ろ・へ」の定着を図り、各月の生活目標の達成率85%以上を目指す。</td><td>・全校集会や学級指導など、教育活動のあらゆる機会を捉え、礼儀や規律の重んじる態度を育成する。 ・生活委員会を中心に、児童自身が自ら考え、進んで行動できるよう、「あいさつ運動の推進」、 「無言掃除や安全な廊下歩行の呼び掛け」等、児童の自主的な活動を支援していく。</td><td>B</td><td>・「あ・ス・な・ろ・へ」の掲示物を増やすことで、その前で立ち止まって読んだり、意識が高まったりしている児童が増えたように感じる。 ・生活指導協議会等を活用した達成率調査ができなかったので、職員の負担を増やさないような手立てを考えたい。</td><td>B</td><td>・落ち着いて生活できている様子が伺える。 ・これからも家庭との連携が必要。</td></tr><tr><td>●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成</td><td>●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上を目指す。</td><td>・年2回の生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣を身に着けさせる。 ・日々の給食指導に加え、年4回の給食週間を設け、全職員で指導を徹底する。</td><td>B</td><td>・2回の残食チェックでは、フードロス問題の資料などを見て意識付けを行った成果が出た。</td><td></td><td>・残菜が減ったことは素晴らしい。 ・家庭との連携がこれからも必要。</td></tr><tr><td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●時間外勤務時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</td><td>・定時退勤日の設定 ・時間外勤務時間調査を毎月20日に中へし、30時間超の職員へのヒアリング実施。</td><td>C</td><td>・定時退勤日の設定の日数を増やしたが、業務が多忙で退勤が難しい。昨年度の超過勤務の時間数を下回ることではできなかった。 ・時間外勤務の時間が多い職員に声掛けを行った。</td><td>C</td><td>・コロナ過でうまく取り組めていないのではない。 ・先生方もワークライフバランスを取ってほしい。</td></tr><tr><td>●業務効率化の推進</td><td></td><td>・コロナ禍で中止した業務を見直し、支障のない行事については、そのまま削減していく。</td><td>B</td><td>・次年度に向けて年度末から年度当初に、業務・行事の精選をさらに行っていく。</td><td>C</td><td>・新しい取り組みが多く業務が増えているような気がする。</td></tr></table>					重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・学力向上対策評価シートやアクションプランを使って、学力向上のPDCAサイクルを確立するとともに、校内研究を充実させ、授業改善を行う。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師86.3%。 ・授業研究を推進し、全校級で研究授業の実践、授業改善に取り組むことができた。	B	・落ち着いて学習に取り組んで切る様子が伺える。 ・家庭での協力も不可欠。	○自分の考えを伝え合い、深め合う[対話活動]や学習内容や学び方を振り返る「振り返り」の充実 ○理由や要点、筋道を立てて考えたこと等を文章で書いたり、説明したりする活動の充実	○独自アンケートで「見通しをもって学習した」「対話活動で進文の考えを相手に分かりやすく説明した」「授業の終わりに振り返ることで身についた力を確認できた」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上	・コミュニケーションスキルを意図的に価値付けることで有効な対話活動ができるようにする。また、学習内容と学び方を振り返らせることで、これらを活用できるようにする。 ・必要感のある対話活動を設定し、児童の書きたい説明したいという意欲を喚起する。表現の技能については、「分かりやすい説明の仕方」をもとに指導する。	B	・「見通しをもって学習した」「対話活動で進文の考えを相手に分かりやすく説明した」「授業の終わりに振り返ることで身についた力を確認できた」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合83.7%。感染症の影響により対話活動が十分にできなかったことも影響している。	B	・グループ学習が制限されているために、工夫して学習に取り組む必要がある。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が95%以上	・道徳教育の充実。 ・年3回の人権教室の充実。 ・「さん」づけで呼び合わせる指導。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。	B	・「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合が、年間を通して95%以上となった。これからも友達を大切にする取り組みを、様々な場面で取り入れていきたい。	B	・日常の様子から優しい子どもたちも多く見受けられる。 ・朝の挨拶をする姿に、大きな差が見受けられる。日常の指導が必要。	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校生活に関わるアンケートで、肯定的意見が95%以上 ○不登校児童の人数を10人以下になるよう目指す。	・毎月、児童へのアンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努める。 ・毎月の生徒指導協議会で、気になる児童については些細な事でも情報を発信し、学校全体で支援していく。	B	・これまで以上に適切にいじめに対応するために、いじめ対策委員会を効果的に機能させる。また、その方法を探っていく。 ・学校生活に関わるアンケートで、肯定的な意見が9割を超えた。	B	・大きな問題になっていないので、これからも、学校が早期に対応を行ってほしい。 いじめ防止標語の内容は素晴らしいものが集まっている。	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上	・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、各学年、年3回以上実施する。	A	・道徳や総合の時間に将来について考える時間を設定し、85%以上の児童が将来の目標をもつことができた。	B	・夢は追いかけることが必要であり、自分の夢を表現する場が必要。	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「あ・ス・な・ろ・へ」の定着を図り、各月の生活目標の達成率85%以上を目指す。	・全校集会や学級指導など、教育活動のあらゆる機会を捉え、礼儀や規律の重んじる態度を育成する。 ・生活委員会を中心に、児童自身が自ら考え、進んで行動できるよう、「あいさつ運動の推進」、 「無言掃除や安全な廊下歩行の呼び掛け」等、児童の自主的な活動を支援していく。	B	・「あ・ス・な・ろ・へ」の掲示物を増やすことで、その前で立ち止まって読んだり、意識が高まったりしている児童が増えたように感じる。 ・生活指導協議会等を活用した達成率調査ができなかったので、職員の負担を増やさないような手立てを考えたい。	B	・落ち着いて生活できている様子が伺える。 ・これからも家庭との連携が必要。	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上を目指す。	・年2回の生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣を身に着けさせる。 ・日々の給食指導に加え、年4回の給食週間を設け、全職員で指導を徹底する。	B	・2回の残食チェックでは、フードロス問題の資料などを見て意識付けを行った成果が出た。		・残菜が減ったことは素晴らしい。 ・家庭との連携がこれからも必要。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・時間外勤務時間調査を毎月20日に中へし、30時間超の職員へのヒアリング実施。	C	・定時退勤日の設定の日数を増やしたが、業務が多忙で退勤が難しい。昨年度の超過勤務の時間数を下回ることではできなかった。 ・時間外勤務の時間が多い職員に声掛けを行った。	C	・コロナ過でうまく取り組めていないのではない。 ・先生方もワークライフバランスを取ってほしい。	●業務効率化の推進		・コロナ禍で中止した業務を見直し、支障のない行事については、そのまま削減していく。	B	・次年度に向けて年度末から年度当初に、業務・行事の精選をさらに行っていく。	C	・新しい取り組みが多く業務が増えているような気がする。
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価																																																																																
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言																																																																															
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・学力向上対策評価シートやアクションプランを使って、学力向上のPDCAサイクルを確立するとともに、校内研究を充実させ、授業改善を行う。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師86.3%。 ・授業研究を推進し、全校級で研究授業の実践、授業改善に取り組むことができた。	B	・落ち着いて学習に取り組んで切る様子が伺える。 ・家庭での協力も不可欠。																																																																															
	○自分の考えを伝え合い、深め合う[対話活動]や学習内容や学び方を振り返る「振り返り」の充実 ○理由や要点、筋道を立てて考えたこと等を文章で書いたり、説明したりする活動の充実	○独自アンケートで「見通しをもって学習した」「対話活動で進文の考えを相手に分かりやすく説明した」「授業の終わりに振り返ることで身についた力を確認できた」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上	・コミュニケーションスキルを意図的に価値付けることで有効な対話活動ができるようにする。また、学習内容と学び方を振り返らせることで、これらを活用できるようにする。 ・必要感のある対話活動を設定し、児童の書きたい説明したいという意欲を喚起する。表現の技能については、「分かりやすい説明の仕方」をもとに指導する。	B	・「見通しをもって学習した」「対話活動で進文の考えを相手に分かりやすく説明した」「授業の終わりに振り返ることで身についた力を確認できた」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合83.7%。感染症の影響により対話活動が十分にできなかったことも影響している。	B	・グループ学習が制限されているために、工夫して学習に取り組む必要がある。																																																																															
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が95%以上	・道徳教育の充実。 ・年3回の人権教室の充実。 ・「さん」づけで呼び合わせる指導。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。	B	・「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合が、年間を通して95%以上となった。これからも友達を大切にする取り組みを、様々な場面で取り入れていきたい。	B	・日常の様子から優しい子どもたちも多く見受けられる。 ・朝の挨拶をする姿に、大きな差が見受けられる。日常の指導が必要。																																																																															
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校生活に関わるアンケートで、肯定的意見が95%以上 ○不登校児童の人数を10人以下になるよう目指す。	・毎月、児童へのアンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努める。 ・毎月の生徒指導協議会で、気になる児童については些細な事でも情報を発信し、学校全体で支援していく。	B	・これまで以上に適切にいじめに対応するために、いじめ対策委員会を効果的に機能させる。また、その方法を探っていく。 ・学校生活に関わるアンケートで、肯定的な意見が9割を超えた。	B	・大きな問題になっていないので、これからも、学校が早期に対応を行ってほしい。 いじめ防止標語の内容は素晴らしいものが集まっている。																																																																															
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上	・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、各学年、年3回以上実施する。	A	・道徳や総合の時間に将来について考える時間を設定し、85%以上の児童が将来の目標をもつことができた。	B	・夢は追いかけることが必要であり、自分の夢を表現する場が必要。																																																																															
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「あ・ス・な・ろ・へ」の定着を図り、各月の生活目標の達成率85%以上を目指す。	・全校集会や学級指導など、教育活動のあらゆる機会を捉え、礼儀や規律の重んじる態度を育成する。 ・生活委員会を中心に、児童自身が自ら考え、進んで行動できるよう、「あいさつ運動の推進」、 「無言掃除や安全な廊下歩行の呼び掛け」等、児童の自主的な活動を支援していく。	B	・「あ・ス・な・ろ・へ」の掲示物を増やすことで、その前で立ち止まって読んだり、意識が高まったりしている児童が増えたように感じる。 ・生活指導協議会等を活用した達成率調査ができなかったので、職員の負担を増やさないような手立てを考えたい。	B	・落ち着いて生活できている様子が伺える。 ・これからも家庭との連携が必要。																																																																															
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上を目指す。	・年2回の生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣を身に着けさせる。 ・日々の給食指導に加え、年4回の給食週間を設け、全職員で指導を徹底する。	B	・2回の残食チェックでは、フードロス問題の資料などを見て意識付けを行った成果が出た。		・残菜が減ったことは素晴らしい。 ・家庭との連携がこれからも必要。																																																																															
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・時間外勤務時間調査を毎月20日に中へし、30時間超の職員へのヒアリング実施。	C	・定時退勤日の設定の日数を増やしたが、業務が多忙で退勤が難しい。昨年度の超過勤務の時間数を下回ることではできなかった。 ・時間外勤務の時間が多い職員に声掛けを行った。	C	・コロナ過でうまく取り組めていないのではない。 ・先生方もワークライフバランスを取ってほしい。																																																																															
	●業務効率化の推進		・コロナ禍で中止した業務を見直し、支障のない行事については、そのまま削減していく。	B	・次年度に向けて年度末から年度当初に、業務・行事の精選をさらに行っていく。	C	・新しい取り組みが多く業務が増えているような気がする。																																																																															
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																																																																																						
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th><th colspan="2">最終評価</th><th colspan="2">学校関係者評価</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>重点取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th><th>評価</th><th>意見や提言</th></tr><tr><td>○長松コミュニティの推進</td><td>○地域・保護者ボランティアの増加 ○児童による地域貢献</td><td>○一昨年度のボランティア延べ人数533人を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、を上回る。 ○地域の行事やボランティア活動に参加する児童を増やす。</td><td>・コミュニティスクール通信を地域の回覧で回したり、HPに載せたりして周知させ、協力の輪を広げる。 ・地域行事やボランティア活動の呼びかけを積極的に行う。 ・校区のゴミ拾いを全校で定期的に行う。</td><td>B</td><td>・コロナ禍においてできるだけ協力者を得ることができた。(ボランティア総数のべ164名) ・校区のゴミ拾いを3回行うことができた。</td><td>B</td><td>・地域の方の意識は高い。コロナが収まれば、また協力できる体制に戻るはず。協力を求めて欲しい。</td></tr><tr><td>○自問教育の推進</td><td>○自問掃除(玉みがき)の徹底 ○自問学習の習慣化</td><td>○独自アンケートで「自問掃除をきちんと行っている」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上。「自分で考えて正しいことができていますか」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上。</td><td>・昨年度同様、自問掃除の徹底を図るとともに、教師の指導の回数をできるだけ減らしていく。 ・職員の話の中に自問教育の考えを織り込みながら、児童・保護者に意識化させる。</td><td>A</td><td>・「自問掃除をきちんと行っている」の項目に対して90%の児童が肯定的な回答をした。「自分で考えて正しいことができていますか」の項目に対して肯定的な回答をした児童の割合が91%だった。</td><td>B</td><td>・ホームページからの様子、アンケートの結果を見るとうまく取り組めているのではないのか。これからも続けて欲しい。</td></tr><tr><td>○仲間づくりの実践</td><td>○コミュニケーションスキルの実践 ○交流活動の実践</td><td>○独自アンケートで「信頼できる友達はいですか(上学年)」 「好きな友達はいですか(下学年)」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上。</td><td>・まずは、きちんと挨拶、正しい言葉遣いの指導を教師が手本となり徹底する。 ・Q-Uの分析を行い、安心できる学級づくりに努める。</td><td>A</td><td>・「信頼できる友達はいですか(上学年)」,「好きな友達はいですか(下学年)」の項目に対して肯定的な回答をした児童の割合は90%。Q-Uテストの分析結果を活用した各学級での仲間づくりが成功している。 ・教師が模範となる生活指導が根付きつつある。</td><td>B</td><td>・普段の児童の様子を見ると、うまく取り組めているようだ。 ・意識をもって続けて欲しい。</td></tr></table>					重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	○長松コミュニティの推進	○地域・保護者ボランティアの増加 ○児童による地域貢献	○一昨年度のボランティア延べ人数533人を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、を上回る。 ○地域の行事やボランティア活動に参加する児童を増やす。	・コミュニティスクール通信を地域の回覧で回したり、HPに載せたりして周知させ、協力の輪を広げる。 ・地域行事やボランティア活動の呼びかけを積極的に行う。 ・校区のゴミ拾いを全校で定期的に行う。	B	・コロナ禍においてできるだけ協力者を得ることができた。(ボランティア総数のべ164名) ・校区のゴミ拾いを3回行うことができた。	B	・地域の方の意識は高い。コロナが収まれば、また協力できる体制に戻るはず。協力を求めて欲しい。	○自問教育の推進	○自問掃除(玉みがき)の徹底 ○自問学習の習慣化	○独自アンケートで「自問掃除をきちんと行っている」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上。「自分で考えて正しいことができていますか」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上。	・昨年度同様、自問掃除の徹底を図るとともに、教師の指導の回数をできるだけ減らしていく。 ・職員の話の中に自問教育の考えを織り込みながら、児童・保護者に意識化させる。	A	・「自問掃除をきちんと行っている」の項目に対して90%の児童が肯定的な回答をした。「自分で考えて正しいことができていますか」の項目に対して肯定的な回答をした児童の割合が91%だった。	B	・ホームページからの様子、アンケートの結果を見るとうまく取り組めているのではないのか。これからも続けて欲しい。	○仲間づくりの実践	○コミュニケーションスキルの実践 ○交流活動の実践	○独自アンケートで「信頼できる友達はいですか(上学年)」 「好きな友達はいですか(下学年)」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上。	・まずは、きちんと挨拶、正しい言葉遣いの指導を教師が手本となり徹底する。 ・Q-Uの分析を行い、安心できる学級づくりに努める。	A	・「信頼できる友達はいですか(上学年)」,「好きな友達はいですか(下学年)」の項目に対して肯定的な回答をした児童の割合は90%。Q-Uテストの分析結果を活用した各学級での仲間づくりが成功している。 ・教師が模範となる生活指導が根付きつつある。	B	・普段の児童の様子を見ると、うまく取り組めているようだ。 ・意識をもって続けて欲しい。																																											
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価																																																																																
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言																																																																															
○長松コミュニティの推進	○地域・保護者ボランティアの増加 ○児童による地域貢献	○一昨年度のボランティア延べ人数533人を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、を上回る。 ○地域の行事やボランティア活動に参加する児童を増やす。	・コミュニティスクール通信を地域の回覧で回したり、HPに載せたりして周知させ、協力の輪を広げる。 ・地域行事やボランティア活動の呼びかけを積極的に行う。 ・校区のゴミ拾いを全校で定期的に行う。	B	・コロナ禍においてできるだけ協力者を得ることができた。(ボランティア総数のべ164名) ・校区のゴミ拾いを3回行うことができた。	B	・地域の方の意識は高い。コロナが収まれば、また協力できる体制に戻るはず。協力を求めて欲しい。																																																																															
○自問教育の推進	○自問掃除(玉みがき)の徹底 ○自問学習の習慣化	○独自アンケートで「自問掃除をきちんと行っている」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上。「自分で考えて正しいことができていますか」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上。	・昨年度同様、自問掃除の徹底を図るとともに、教師の指導の回数をできるだけ減らしていく。 ・職員の話の中に自問教育の考えを織り込みながら、児童・保護者に意識化させる。	A	・「自問掃除をきちんと行っている」の項目に対して90%の児童が肯定的な回答をした。「自分で考えて正しいことができていますか」の項目に対して肯定的な回答をした児童の割合が91%だった。	B	・ホームページからの様子、アンケートの結果を見るとうまく取り組めているのではないのか。これからも続けて欲しい。																																																																															
○仲間づくりの実践	○コミュニケーションスキルの実践 ○交流活動の実践	○独自アンケートで「信頼できる友達はいですか(上学年)」 「好きな友達はいですか(下学年)」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上。	・まずは、きちんと挨拶、正しい言葉遣いの指導を教師が手本となり徹底する。 ・Q-Uの分析を行い、安心できる学級づくりに努める。	A	・「信頼できる友達はいですか(上学年)」,「好きな友達はいですか(下学年)」の項目に対して肯定的な回答をした児童の割合は90%。Q-Uテストの分析結果を活用した各学級での仲間づくりが成功している。 ・教師が模範となる生活指導が根付きつつある。	B	・普段の児童の様子を見ると、うまく取り組めているようだ。 ・意識をもって続けて欲しい。																																																																															
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育																																																																																						
5 総合評価・ 次年度への展望	・本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、思うように行事や地域との交流を進めることができなかった。次年度も引き続き感染症対策を行っていきながら、行事や交流を進めていくとともに、学校の情報発信に努めたい。 ・学力向上では、一定の成果があった。有効であったと思われる取り組みを検証し、引き続き進めて行きたい。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」について、思うように成果を上げることができなかった。業務、行事等の見直しを行い時間外勤務の削減に努めたい。																																																																																					